

4 水質・底質の現況

4.2 底質と底生生物の現況

瀬戸内海の底質と底生生物の概況について、環境省実施調査である「瀬戸内海環境情報基本調査（平成13年～17年度）」では、以下のように考察されている。主要な項目の水平分布図については、図4-17～図4-18に示す。

なお、環境省では、瀬戸内海での底質調査を、これまで第1回（昭和57～62年度）、第2回（平成3～8年度）、第3回（平成13～17年度）と約10年間隔で実施してきた（資-6を参照）。底質と底生生物の調査結果は以下のとおりである。

(1) 底質

第3回調査における各湾・灘の底質の各項目の基本統計量（平均値）は、その20年前（第1回）の調査結果と比較すると、酸化還元電位を除いた各項目に大きな変化は見られなかった。

各湾・灘の類似性、及び10年間の変化を検討するため、底質の各項目を用いてクラスター分析を行い、10年前（第2回）の調査結果と比較したところ、悪化している海域は見受けられず、全ての海域で改善の傾向が見られた。特に周防灘が顕著であった。

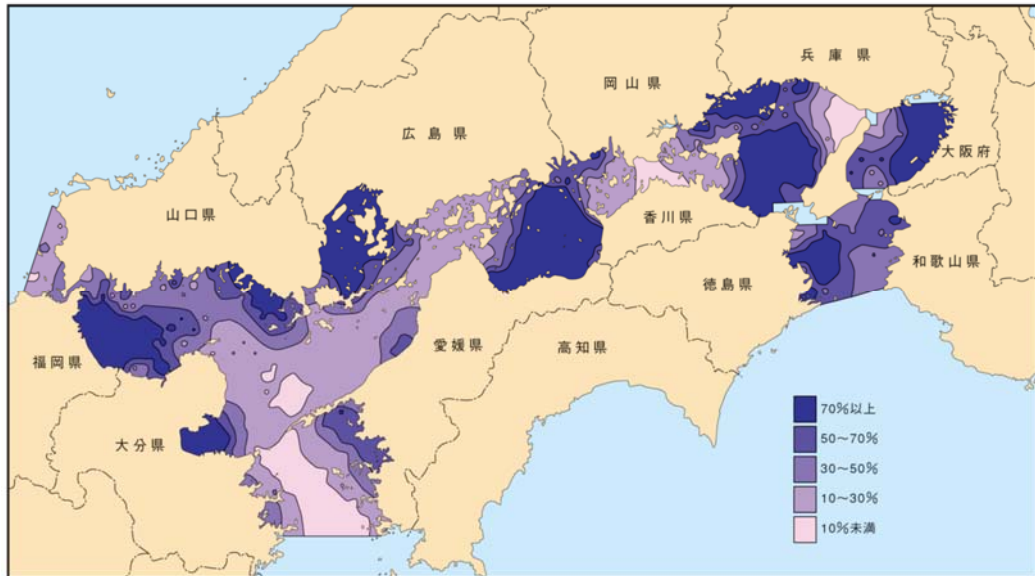
(2) 底生生物

各湾・灘において、マクロベントスの種類数、多様度指数などを変数としたクラスター分析を行った結果、マクロベントスの豊かな安芸灘、マクロベントスの貧弱な別府湾、広島湾、及び大阪湾、その中間に位置するその他の海域に分類できた。

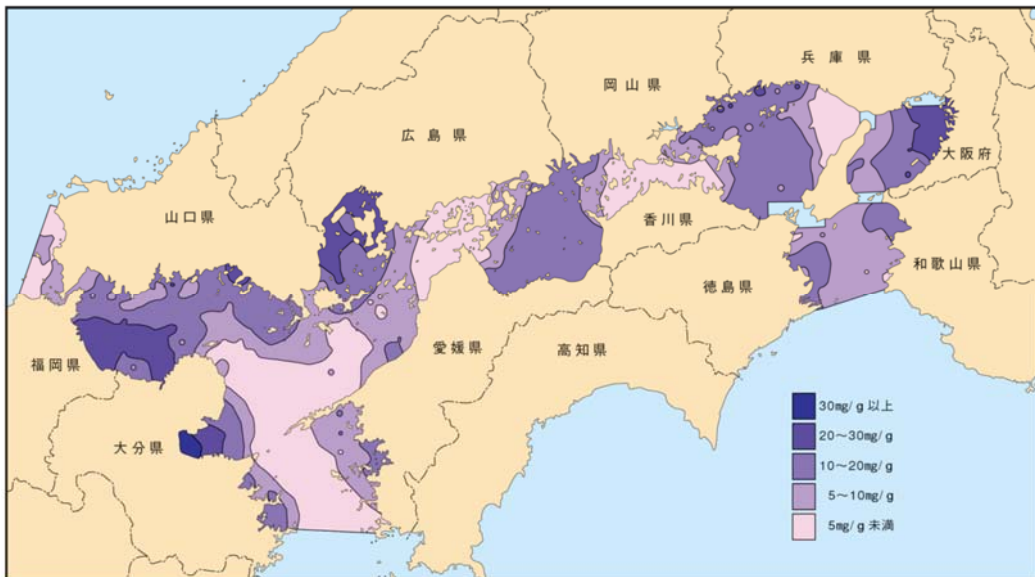
10年前（第2回）の調査結果と比較すると、平均値の差について、統計的に有意な変化が見られたのは播磨灘（個体数が減少）、燧灘（種類数、及び個体数が減少）、紀伊水道（種類数が減少）、備讃瀬戸（種類数が増加）、豊後水道（種類数が増加）、安芸灘（種類数、及び個体数が増加）であった。

4 水質・底質の現況

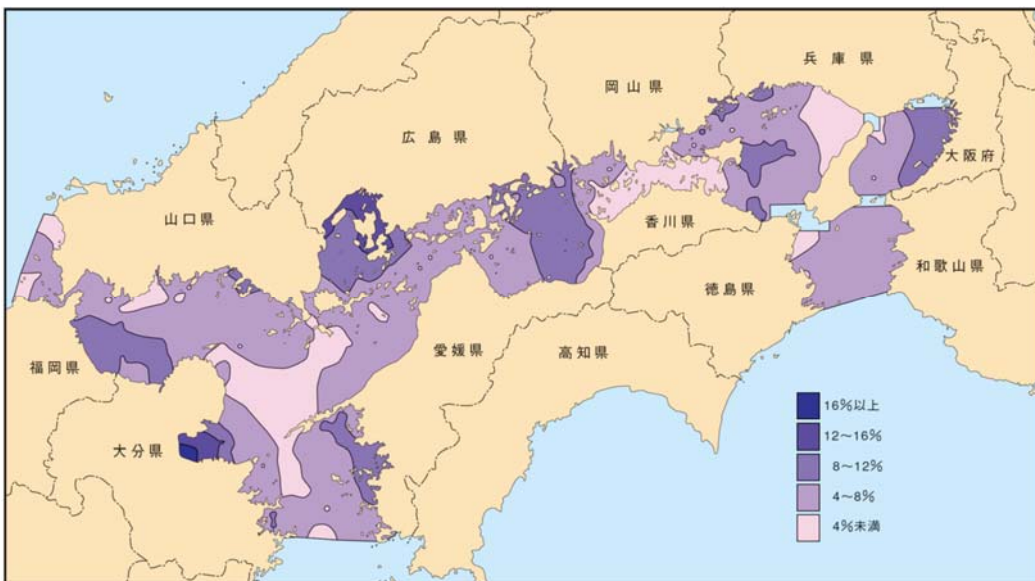
[含泥率]



[COD]



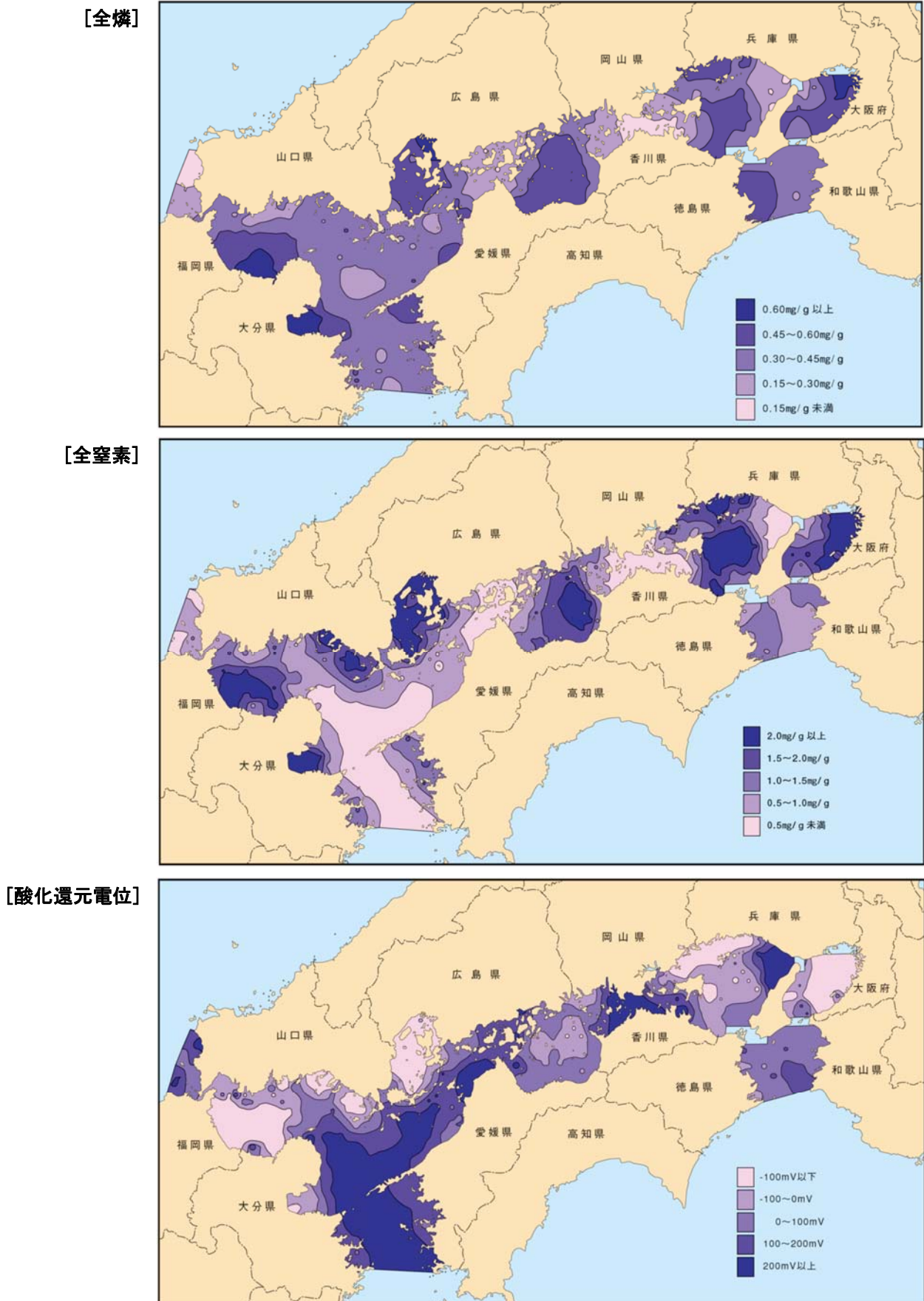
[強熱減量]



出典：平成13～17年度：「瀬戸内海環境情報基本調査」（環境省）より作成

図4-17 (1) 底質分布図

4 水質・底質の現況

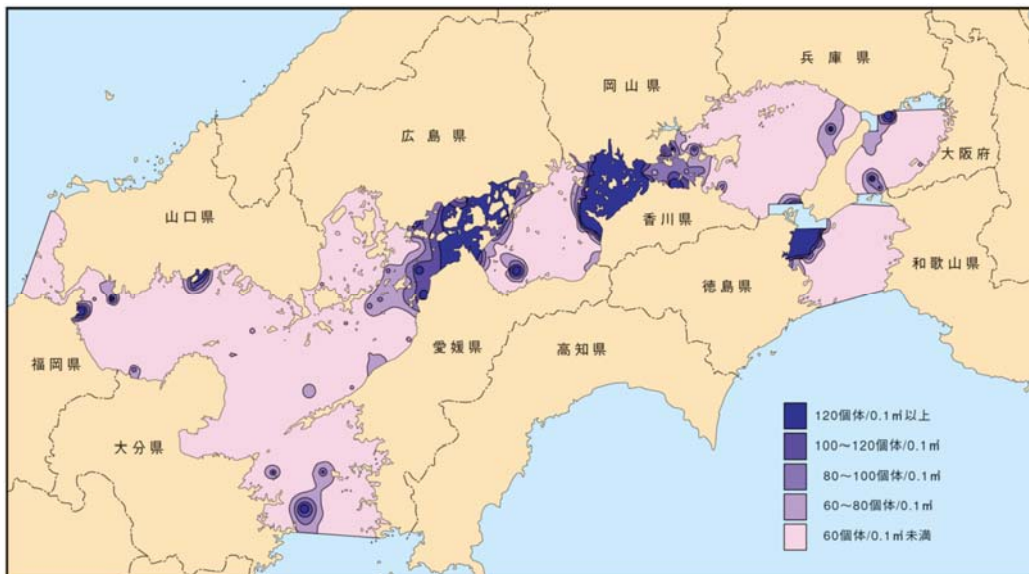


出典：平成13～17年度：「瀬戸内海環境情報基本調査」（環境省）より作成

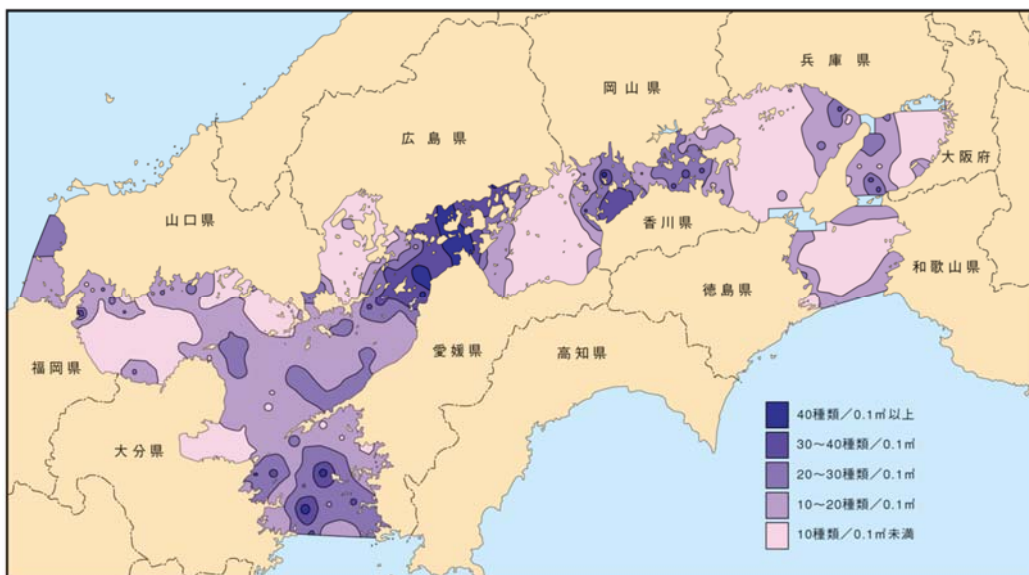
図4-17 (2) 底質分布図

4 水質・底質の現況

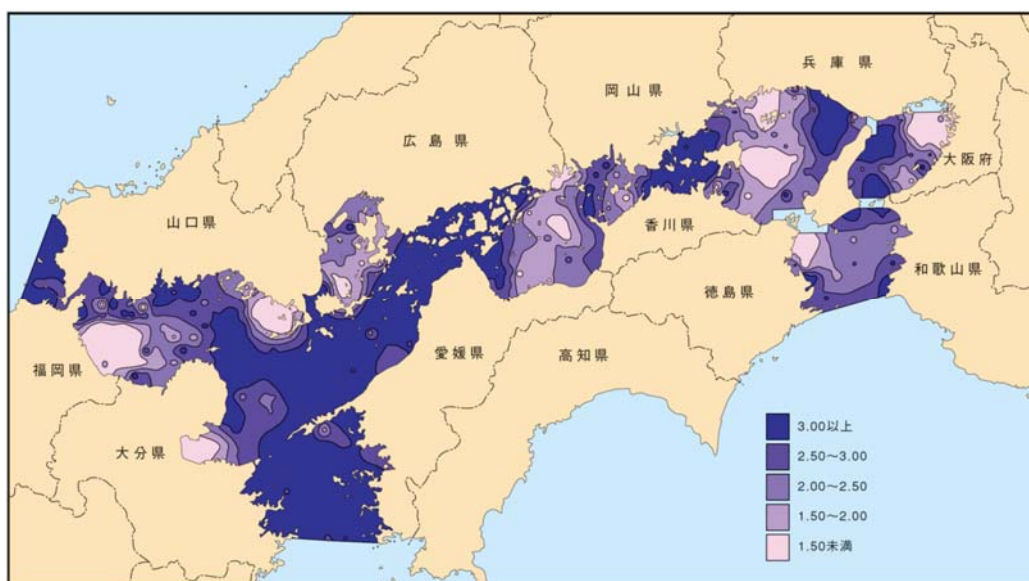
[マクロベントス個体数]



[マクロベントス種類数]



[マクロベントス多様性指数]



出典：平成13～17年度「瀬戸内海環境情報基本調査」(環境省)より作成

図4-18 底生生物分布図